

2019 年 1 月 16 日

J S C A 指導者検定会ベーシック課程 三重県南伊勢町会場 報告書

報告者：サニーコーストカヤックス
本橋 洋一

■開催概要

開催日：2019 年 1 月 12 日（土）、13 日（日）
会場：三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦
受験者数：2 名
認定者数：1 名
主管：サニーコーストカヤックス
担当検定員：サニーコーストカヤックス 本橋洋一

■タイムスケジュール

01 月 12 日（土）

天候：曇り、一時雨

09:00 サニーコーストカヤックス 集合
09:05 開会式
09:30 講義 1「総論」
11:20 休憩
11:30 筆記試験「総論」
11:45 昼食
13:00 講義 2「パドルスポーツの基礎知識」
14:50 休憩
15:00 筆記試験「パドルスポーツの基礎知識」
15:15 休憩
15:25 講義 3「安全について」
17:15 休憩
17:25 筆記試験「安全について」
17:40 終了、翌日の説明
18:30 解散

01 月 13 日（日）

天候：晴れ、北の風 2～6m 波高：0.5m 以下

09:00 サニーコーストカヤックス 集合
09:20 移動、練習
10:00 「漕艇技術」検定
10:30 「指導技術」検定
10:45 フィードバック講習（指導技術、フォワードストローク、スweepストローク、他）
12:00 昼食
13:30 「安全技術」講習
15:55 講習終了、片付け、着替え
17:00 結果発表

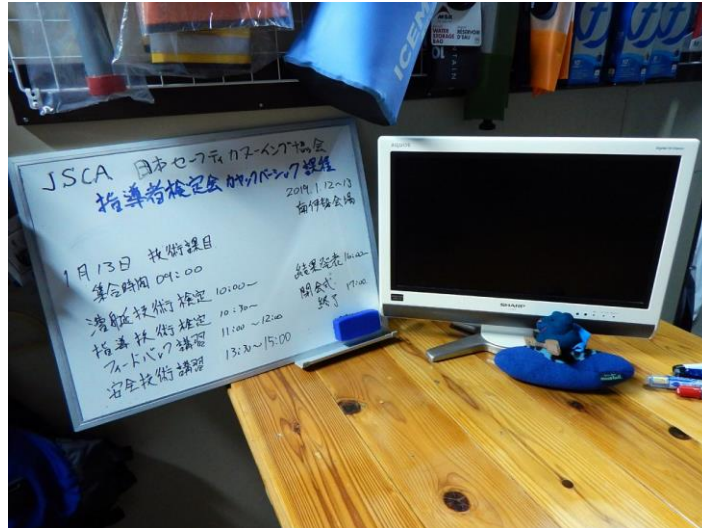
17:30 終了、解散

■詳細

<知識課目>

場所：サニーコーストカヤックス店舗内

「総論」では JSCA についての説明にしっかりと時間を費やした。そもそも受験して資格取得を目指す協会のことを知らないのは本末転倒であり、また、取得後のカヤックインストラクターとしての活動、公認スクール開設への手順などもテキストと JSCA のパンフレットを用いて講義した。



「パドルスポーツの基礎知識」の講義は実物のカヤックや装備を見て、触り、普段使用しているカヤック以外についても知識を得てもらった。カヤックインストラクターとして活動していくのならば、自身が使用しているカヤック以外の種類のカヤック、パドルスポーツについても最低限の知識は持つておかなければ参加者からのいろいろな質問、話題に対応できないからである。

また、風によってカヤックが受ける影響についてはカヤック模型を使用して説明した。今回の受験者のお二人はリバーカヤックを用いて川の中流域のトロ場での活動のため今まであまり風の影響というのを実感していなかったので、しっかりとイメージできるように丁寧に講義した。



「安全について」ではパワーポイントを使用し、野外での活動において注意しなければならない様々な症状についてとその対処法・予防法を学んでもらった。特に低体温症と熱中症に関しては、発症後に対処するよりも予防が大切であることを強調し、類似する点が多いことも分かりやすくまとめて表示するように工夫した。翌日の安全技術講習を見据え、セルフレスキュー・ファーストやレスキューの3Sなどレスキューの要となる概念については特に意識付けするようにした。



<技術課目>

場所：五ヶ所川 河口付近

使用艇：リバーカヤック

「漕艇技術検定」を始める前に30分程度の練習時間を設け、その間に検定コースの最終確認などをした。北寄りの風1～4mほど、時たまブローが入ったが検定の採点に影響するほどではなかった。

「指導技術検定」はPFD装着は二人ともにしてもらい、乗艇下艇と陸上パドリングはそれぞれ模擬講習をしてもらい採点した。現場での経験はまだほとんどないということだったが安全にも配慮された内容だった。



午前中の残りの時間を使ってフィードバック講習を実施。まず、指導技術の模擬講習を本橋が一通りやりながら太陽の位置と立ち位置についてや、プログラム内容に合わせて陸上パドリングを省略・追加することなど、正解はないが現場に合わせて工夫して欲しいと伝えた。

それから水上に漕ぎ出し、主にフォワードストロークとスweepストロークについて、違いをはっきりと意識し

て漕ぐことでメリハリが出て艇操作もスムーズになることなどを講習した。

昼食を挟んだ後、「安全技術講習」を実施。牽引方法について1対1、1対2や、手放してしまったパドルを回収してからレスキューに向かう練習、そうした動きの中でカヤックが風によって受ける影響についても体験してもらった。

その後、リバーカヤックではあまりやらないがセルフレスキューの練習をし、最後にグループレスキューを交替で実施した。レスキューでは浮力体ありとなしとで練習させ、浮力体の重要性を意識させた。また、スターンハッチが装備されたレクリエーション艇も使い、リバーカヤックとの違いも感じてもらった。



<結果発表>

結果を発表した後に、「漕艇技術検定」で撮影した本橋のデモをビデオで確認し、どういった点を注視して採点したか、また、それを踏まえてフィードバック講習をしたことを伝えた。

合格者にはその場でJSCA 一般会員入会申込書を記入していただき、入会金、年会費もお預かりすることができた。公認スクール開設も検討するとのことなので、担当検定員としてしっかりとフォローしていきたい。

以上